

平成 28 年度第 3 回九州病院地域医療運営委員会 議事概要

【日 時】平成 29 年 1 月 25 日（金） 18：30～19：20

【場 所】ホテルクラウンパレス北九州会議室

【議 題】 1. 当院の現況報告（地域医療連携及び救急医療）について
2. 当院への要望について

【出席者】 穴井 堅能 （北九州市八幡医師会会長）
大蔵 雅文 （八幡歯科医師会専務理事）
白石 昌之 （香月中央病院院長）
松本 八州人（青山中央外科病院院長）
河村 恭輔 （河村内科医院院長）
金 平榮 （永犬丸小児科医院前院長）
川越 忠篤 （川越産婦人科クリニック院長）
筋田 和文 （萩原中央病院院長）
浦上 泰成 （正和なみき病院院長）
脇園 隆二 （八幡薬剤師会会長）
竹村 保美 （八幡西消防署長）
田中 隆信 （八幡西区役所保健福祉担当部長）
正木 文久 （まさき司法書士事務所司法書士）
多治見 司 （JCHO 九州病院院長）
水島 明 （JCHO 九州病院副院長）
内山 明彦 （JCHO 九州病院副院長）
山本 英雄 （JCHO 九州病院副院長）
上村 哲郎 （JCHO 九州病院副院長）
三島 俊彦 （JCHO 九州病院事務部長）
元嶋 文恵 （JCHO 九州病院看護部長）
是永 緑 （JCHO 九州病院地域連携室長）
高田 由美子（JCHO 九州病院副看護師長）

【概 要】

1. 当院の現況報告（地域医療連携及び救急医療）について
・地域医療連携及び救急医療の状況を報告。
2. 当院への要望について

◇ 意見

在宅医療について

- ・地域医療構想の中でかなり問題になってくるのが、在宅医療である。北九州市の場合、この在宅医療が弱いということで、JCHO九州病院がどのように関与していけばいいのか。医師会の先生方に全てお任せしていいのか。何らかの形で病院として貢献することができるのか。お手伝いすることがあれば検討したい。

- ・在宅医療に関しては、まだまだ足りません。昨年の11月に八幡在宅医会を立ち上げて、これからネットワークを作りグループごとに診て行く体制を考えている。個人で24時間365日対応することは無理なので、医師会としては、まずネットワークを作りグループで診るような形で考えている。

JCHO九州病院の位置付けとしては、重症度の高い急性期の患者が対象であり、在宅医療に関してはどちらかというと私的病院が受け入れていくと捉えている。JCHO九州病院に対する要望としては、退院時の退院時指導です。退院時のカンファレンスに開業医が参加するのは難しいが、今、医師会で在宅医療介護連携支援センターがある。その職員が出来る限りそういう場に行き色々な情報を収集することで、在宅復帰する患者さんの情報を迅速に確認できる体制を整備しているところです。在宅医療を探す時の支援等は医師会で対応すると考えている。今後、解決しなければならないことは沢山あるが現在のところは在宅を行っている医師にお願いしているという状況である。

⇒在宅医療の患者さんが急変した時の受け入れ先が当院以外であることは現状のままであるが、夜間・土日の体制において2～3日の短期間であれば一時的に当院で入院し、転院が可能であれば積極的に貢献できると考えている。

- ・短期間の入院を考えていただけるなら非常に有難い。例えば急性期を乗り切り、何とか落ち着いた状況であれば、医師会で有床診療所を持っている医師が対応できると思う。

- ・救急隊の対応としてはいかがでしょうか。

- ・救急患者の要請があれば出動する。その後、治まった後の療養型病院への搬送は出動出来ないのでもそこはお願いしたい。

⇒当院は搬送車が2台あるので、ある程度は可能である。受け取るといっても繁忙期とかある程度の救急の許容数もあるので全てが可能とはいかない。

- ・小児の在宅については、北九州地区小児科医会で、小児在宅医療委員会というのがあり、貴院の小児科医師が委員長となり基幹病院を核に精力的に取り組んでおり、そのすそ野は拡がりつつあります。また、発達障害療育対策委員会もあり、行政も含めた多職種と連携して年4回の勉強会を実施している。
- ・在宅の基幹病院は必要ないと思われる。JCHO九州病院には急性期患者の夜の受け入れ等をお願いしたい。
⇒当院としては、在宅医療については出来る限り対応させていただきたい。

－以上－